

「4月からのこれまでの活動を振り返ってどうですか？」

あつという間に7ヶ月が過ぎ、とても濃い日々を過ごして来たように感じています。特に印象に残ったのが「シシの栽培と蒸留」です。シシは、生えはじめの雑草と区別がつかない位の時から何度も草取りをしなければいけません。収穫して束ねて干し(はき掛け)、みんなで協力して踏んで釜に詰め込み、蒸す。どれも決して楽しい作業ではありませんが、シシ蒸しが終わった時は本当に達成感があり、来年が楽しみになりました。

「以前のインタビューで、今後自分で農作物を何かを作りたいと話していましたが、その後どうなりましたか？」

何を作るかはまだ決まっていませんが、加工品として使える作物、この辺では作られていない作物など色々と考えているところです。決めるにあたり、指導農家さんと夜遅くまで話し合いをすることもあります。自分の考えや、挑戦したい事について、親身に相談に乗ってくれる指導農家さんにとっても感謝しています。引き続きアドバイスをもらいながら決めたいと思います。

「協力隊の活動について、端野自治区の皆さんに伝えたい事はありますか？」

現在、農家さんの元で指導を受けながら農作業をして、協力隊の任期が終わる3年後に向けて日々学んでいる最中です。普段、地域の皆さんとの関わりはまだ多くないかもしれませんが、12月からは端野総合支所にいることも増えるので、見かけた際は気軽に声をかけてください！



☆地域おこし協力隊☆
内木 一貴 (ないき かずき)さん

また、太陽まつりやカレーライスマラソンなどのイベントでは、背中に「地域おこし協力隊」と書いたツナギを着て作業をしています。「協力隊」の存在をアピールしつつ、イベントの運営や盛り上げに少しでも貢献できたらと思います。

「現在、協力隊をもう1名募集していますが、先着協力隊として活動についてアピールしたいことはありますか？」

私は北海道での生活が初めてで、来たばかりの時は正直、新しい人間関係や生活環境に不安もたくさんありました。しかし、本当の家族のように接してくれる指導農家さんのおかげで、最初に感じていた不安はすっかり無くなりました。そして、北海道といえは冬です。これから初めての北海道の寒さと雪を体験していくことになりませんが、持ち前の体力でしっかり乗り越えたんです！

日々の活動を通して自分の考えややりたい事が少しずつ形になってきています。協力隊としての志、「こういうことをやりたい！」という思いや考えがあれば、「ここに来て絶対後悔することはありません。成長出来る環境があります。もし少しでも協力隊や農業について考えている方がいれば、ぜひ端野町に来て欲しいです。」

※活動インタビューその①は平成29年7月1日発行の第31号に掲載しています。

端野自治区では、平成30年4月採用予定の地域おこし協力隊員1名を募集しています。新たな農業の担い手として、豊実・北登地域の農業振興や地域活性化を目指し、定住する意欲のある方の応募をお待ちしています。詳しくは、北見市ホームページやフェイスブックページ、「JOIN(一般社団法人 移住・交流推進機構)」ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。都市圏に親族や友人・知人がいる方は協力隊の募集について、ぜひお知らせしてください。応募にはいくつかの条件がありますので、まずは一度お問い合わせください。(産業課TEL0157-56-4003)

ハツカからシシへ 蒸留技術の伝承

10月下旬〜11月上旬に、北登蒸留施設でシシ油の蒸留作業が行われました。

下の写真は、重油式バーナー蒸留機の釜に乾燥させたシシを詰め込んでいるところです。(11月1日撮影)ぎつしりと詰め込むため、大人5〜6人で踏み固めながらの大変な作業ですが、あたり一帯に広がるシシの香りは「季節の地域の風物詩」となっています。

この蒸留施設では、以前はハツカ油の蒸留が行われていました。ハツカの栽培は明治34年から始まり、端野町の農業を大きく発展させました。ハツカは乾燥させてから釜で蒸し、蒸気と一緒に葉から出た油を冷やし、水と油を分離させます。他の作物に比べ寒さに強く、収入も多く、外国にも輸出されるほどでした。農家は時期になるとハツカの蒸し釜小屋に寝泊りし、家族総出で朝から晩まで作業をしていました。しかし、安い合成ハツカの普及により、端野町では昭和54年で生産が中止され、その後、昭和55年より北登地域で、ハツカに代わる作物としてシシの栽培が始まりました。ハツカの生産が終わっても、シシ生産者と地域の協力のもと蒸留技術は引き継がれており、地域の一体感も生み出されています。

また、この北登蒸留施設は「北見市田園空間博物館」のサテライト施設の一つとなっています。



「北見市田園空間博物館」とは、旧北見市と旧端野町を合わせた空間すべてを屋根のない博物館に見立てたものです。そこにある農村地域の風景や歴史的農業施設などの資源(サテライト)の価値に注目し、地域の郷土について理解を深めるため、蒸留作業は毎年期間限定ですが、見ることが出来ますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

編集後記 ～知っていますか？マジックの効果！～

8月に端野町公民館で開催された「心を育むコミュニケーションマジック事業」(まちづくりパワー支援補助金事業)に参加しました。

講師の「やまちゃん」の巧みなマジックや、わがままボディから繰り出される決めポーズにも驚いたのですが、マジックには「意識の活性化」と「コミュニケーション能力の向上」に素晴らしい効果を持っていることを知りました。マジックを見ると、驚きや感動があり、それを誰かに伝えたい・見せたいという感情が生まれてきます。誰かに伝えるためには、説明や会話といった相手とのコミュニケーションが必要となります。マジックはタネがばれないようにするための技術はもちろん、相手の視線や意識をどこに向けるかといった話術やコミュニケーションが重要となることから、会話を楽しみながら話術が鍛えられ、コミュニケーション能力が向上するそうです。

今年も残すところ1ヵ月となり、クリスマスやお正月、忘年会など、何かと集まる機会が多くなる時期ですので、コミュニケーションのきっかけにマジックを活用して仲間と楽しんでみたり、新しい出会いや友だちの輪を広げてみてはいかがでしょうか。

(地域振興係 中島)



プロマジシャン 緑の妖精「やまちゃん」
釧路市出身の29歳。福祉施設でのマジックショーや企業研修会の講師をつとめるほか、多数のテレビ番組やCMの出演、また現役野球選手のホームパーティー、ハリウッド俳優の誕生会にも招待されるそうです。マジシャンになる前は、北見市内で普通のサラリーマンをしていたそうですが、今ではもっとも予約の取りづらいマジシャンと言われるほど活躍されています！

「たんの地域振興だより」は、北見市ホームページにも全号掲載しています。ホームページ内端野総合支所のページに進み、左のアイコンからGO☆<http://www.city.kitami.lg.jp/chiiki/tanno/>
(編集/発行) 端野総合支所総務課地域振興係 (電話) 0157-56-2113

